

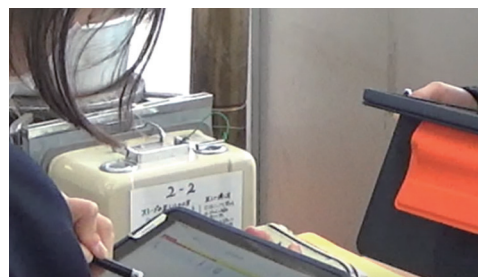
## Research Your Topic

### 目標

日本に来たばかりの ALT の教師に自分たちのことをよりよく知ってもらうために、互いの好きなものやその理由などについてインタビュー活動を行い、その調査結果に基づいて、学級で人気のあるものや好きなものについて、伝える順番や内容に留意して分かりやすく伝えることができる。

### 活用ポイント

インタビュー活動をより効果的に進めるために、デジタル教科書の書き込み機能を活用する。インタビュー調査したいトピックや質問を考え、デジタル教科書に書き込みをする。また、インタビュー結果について書き込み機能を使って記録し、記録を参考にしながら、インタビューの内容を伝え合う。



### 授業展開例（4時間目／全11時間）

#### < 学習活動 >

本日の授業のねらい、流れについて、モデルを示しながら確認する。同時にデジタル教科書のトピック例を基に書き込み機能等の確認を行う。

調査するトピック及び質問内容を考え、デジタル教科書に書き込む。

インタビューで聞きたい内容ややり取りを効果的に進めるために既習の表現をデジタル教科書から引用したり、音声の確認をしたりする。

準備したトピック及び質問内容を基に、クラスメイトにインタビュー調査を行う。

インタビュー調査の記録を基に、ペアでインタビューの内容を報告し合う。

インタビュー調査の記録を基に、調査結果を英語で書く。

#### < デジタル教科書の活用例 >

**指導者** デジタル教科書の書き込み機能を使って、本時の活動のモデルを示す。

**学習者** インタビュー調査に向けて、トピック及び質問内容について、デジタル教科書の書き込み機能を使って整理する。 **効果01** **01**

**学習者** デジタル教科書の音声を聞くことで、現代の標準的な発音や語彙や表現などの活用の仕方を確認する。 **02**

**学習者** インタビューする際、相手の答えをデジタル教科書の書き込み機能を使って、メモに残す。

**学習者** デジタル教科書の書き込みを参照し、相手に調査結果を説明する。 **効果02**

**学習者** デジタル教科書の書き込みを参照しつつ、調査結果を取りまとめた報告書を作成する。

導入



一斉

展開



個別



グループ

まとめ



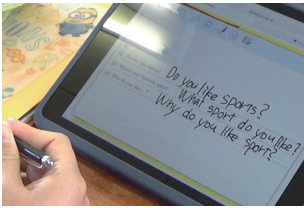
個別

## デジタル教科書の活用による効果

### 活用効果 01

個人のペースで学習を進めることができ、現代の標準的な発音や語彙、表現などの確認、習得ができる。

個別

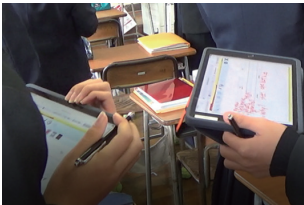


- 音声読み上げ機能を用い、「読むことに自信がない」生徒や、「もっとうまく読みたい」生徒が自分のペースで音声を確認できるとともに、既習の表現の中で使いたい表現を引き出す際に音声での確認もできる。
- 音声を止めたり、同じ箇所を繰り返し聞いたりすることにより、音のつながりやイントネーションなどに留意しながら練習することができる。
- 英文と音声が一致することで、語彙や表現の理解が進み、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに合わせたより適切な表現を身に付けることができる。

### 活用効果 02

書き込みを通じて自分の考えを深めたり、生徒同士で考えを確認し合ったりすることで、より適切な表現を選んで伝え合うことができる。

グループ



- 書き込みした内容を互いに見せ合うことで、文法上の誤りを指摘し合ったり適切な表現に気付いたりして、学び合いの場面を作ることができる。
- これらの書き込みはデジタル教科書に保存されるため、学習の足跡を残すことができ、自分自身の成長や変容に気付くことができる。

## 学習効果を高める工夫



工夫01

書き込み機能や音読機能を活用し考えの形成や対話の充実に繋げる。

個別

デジタル教科書の書き込み機能や音読機能を活用することで、生徒が事前に伝えたい内容を整理したり、対話を充実させるための表現を教科書本文から引用したりすることが容易になるために、言語活動をこれまで以上に充実させることができる。



工夫02

思考力、判断力、表現力等の育成を通して、英語の特徴やきまりに関する事項の定着を目指す。

個別

言語活動を通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた適切な表現を考える際、文法、文構造、発音等に不安がある場合は、個人の課題に応じて、デジタル教科書を活用することができる。その際、書き込み機能を使うことで、思考や成長の履歴が残り、学びのポートフォリオとなる。また、言語活動を通してそれらの確認を行うことは、文脈の中で言語材料について考えるので、知識及び技能の習得につながる。

### 担当教師の声

単語や英文が読めないことで活動に意欲をもつことができない生徒が少なからずいたが、デジタル教科書を活用することで、言語活動へのハードルが下がったように感じている。あらかじめやり取りに活用する表現を自分で考え、読み方に不安がある場合は、デジタル教科書の音声再生機能を使って練習・確認することで、言語活動を行う際に自信をもって参加することができていた。デジタル教科書は英語に対する苦手意識の克服に効果があると感じる。

## 目標








学校紹介レポートを通じて、自分の中学校の魅力や楽しさを小学校6年生に伝えるために、学校行事や部活動、心に残った思い出等について事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。本時のめあては、写真を使って、過去の出来事について相手に分かりやすく伝えることができること。

## 活用ポイント

学習を通して、自分が使いたい表現をデジタル教科書に書き残していき、そのメモも参考にし、使いたい表現をどんどん引き出せるように促す。また、音声はそのサポートになる場合は、自由に音声を聞かせる。



## 授業展開例（2時間目／全10時間）

	< 学習活動 >	< デジタル教科書の活用例 >
導入	 ALT (JTE) の中学校の思い出を全体で共有し、その内容について質疑応答をする。	
	 教科書本文の Kate の思い出ブログを読んで、過去形（肯定文）の使い方を確認する。	 デジタル教科書に書き込みをしながら、内容を想像する。 
展開	 教科書の動画を見て、Kate のブログ内容を理解する。	 視聴した後、本文に戻り、意味の分からない単語、読めない単語を区別して線を引く。 
	 一斉練習の後、ペアでリピーティング、シャドウイングなどの音読メニューを自己選択し、練習する。	 発音やイントネーションなど、あいまいな部分はデジタル教科書を活用し、自分のペースで練習を進める。 
	 ALT や Kate のブログの写真、Drill のイラスト等を使って、自分の思い出をペアの友だちに伝える。	 1回目のやり取りを終えた後、自分が友だちに追加情報として伝えたいと思ったこと等をデジタル教科書にメモして思考の履歴を残す。 
	 伝えたくても伝えられなかった表現について全体で確認をする。	
まとめ	 ペアを替えて2回目のやり取りを行う。	 読み方についてはデジタル教科書を使って確認する。
	 やり取りに工夫や変容が見られるペアの発表を全体で共有する。	
	 ゴール（学校生活の思い出紹介）に向けて、使いたい表現、工夫したいことなど考えたことを振り返りシートに書く。	

※授業の学習指導案等を参考にして作成していますが、実際の授業の流れとは異なります。

## デジタル教科書の活用による効果

### 活用効果 01

現代の標準的な発音や語彙、表現などの確認等について個人のペースで学習することができる。

#### グループ

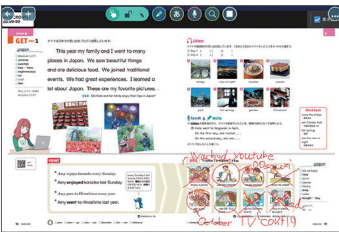


- 音読練習をする際、発音やイントネーションなど、あいまいな部分はデジタル教科書を活用し、自分のペースで練習を進めることができる。
- デジタル教科書のネイティブ・スピーカー等が話す音声を自分に適した速度や聞き逃した部分などを重点的に聞くことによって、語彙や表現の習得が可能になる。

### 活用効果 02

書き込みを通じて自分の考えを深めたり、生徒同士で考えを確認し合ったりすることで、より適切な表現を選んで伝え合うことができる。

#### グループ



- いつでも消したり、書いたりできるデジタル教科書の利点を生かして、自由に書き込むように、日頃から指導をしておくことで、生徒一人一人の思考の履歴を残しておくことができる。
- 例えば、本事例では生徒に好きな写真やイラストを選択させて、思い出と事実に分けて伝え合う活動において、やり取りを終えた後に、自分が友達に追加情報として伝えたいと思ったこと等をメモさせるようにしていた。

## 学習効果を高める工夫

### 工夫01

読ませ方の視点を与え、生徒のペースで読ませる。

#### 個別

デジタル教科書を活用すると、生徒のペースで自由に書き込みをしながら読むことができる。その際、単元目標の達成の観点から、読ませ方の視点を与えることが重要である。例えば、本事例では「過去形（肯定文）の使い方を確認すること」や「内容を想像して読むこと」を目的として、「①事実、情報の追加、気持ちを区別して読む」「②過去形を探す」「③写真を並び替える」といった3つの視点を与えていた。

### 工夫02

自分で調べたり、音読練習をしたりする習慣を、日々の授業の中につくる。

#### 一斉

デジタル教科書は持ち帰って家庭学習で活用することもできる。そのため、デジタル教科書を使って自分で分からない単語を調べたり、音読練習をしたりする習慣を、日々の授業の中につくることも重要である。

### 担当教師の声

デジタル教科書を活用することで、2つの変化を感じている。1つ目は、音読に対して消極的だった生徒が自分で音声を繰り返し確認しながら、練習できるため、前向きに取り組むようになったことと、発音やイントネーションに対して意識が高まっている。また、2つ目は、デジタル教科書には書き込みが繰り返し可能なため、思考の履歴が残る。自分が使いたい表現や、使えるようになった表現を記録に残したり、内容を広げる時にその履歴を見返したりすることで、表現の幅が広がっている。デジタル教科書を継続的に活用することで、学び方に新たな選択肢が増え、今後もさらに活用を工夫し、生徒の英語力向上につなげたい。